

吹奏太郎



- ★ 「指揮者と演奏者の皆さんへ」
…コンクール審査員より
- ★ マイバンド・マイミュージック
…小山市立小山第三中学校吹奏楽部
- ★ 各支部だより(県内各支部広報部員より)
- ★ コンサートカレンダー 10月～11月

目次

✂ 理事長 巻頭言	1
“県吹奏楽コンクールを振り返って”	
✂ 栃木県吹奏楽コンクール	
金賞受賞団体一覧	2
✂ 「指揮者と演奏者の皆さんへ」	
県コンクール審査員より	4
✂ 各支部だより	
佐野 & 足利	7
芳賀・真岡	8
塩那 & 下都賀・栃木	9
下都賀・小山	10
上都賀	11
✂ マイバンド・マイミュージック	
小山第三中学校	12
✂ コンサートカレンダー	14
✂ チューニング	15



県吹奏楽コンクールを振り返って

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

夏休みに入るや、じっくりと吹奏楽の練習に打ち込もうとしているうちに、諸行事も加わり、慌ただしくコンクールとなってしまったような気がする。

県コンクールを振り返ってみると、毎年、指導者の異動によって大きく変わるものだと、つくづく考えさせられる。指導者が変わったと同時にその団体の音楽性が変わり、団員数(部員数)も変わって良き面、悪しき面が現れるものである。

今年の県コンクールの傾向を総合的に振り返ってみることで、来年やこれからの吹奏楽のあり方、進め方にいくつかの課題を垣間見ることが出来る。

小学校の部門においては、加盟校数から見ると参加数が少ないが、質の面から見ると高度な音楽を奏でていると思われる。本県の金管バンドは一時流星のごとく発展と高度な音楽が見られたが、最近、やや低迷の傾向となっている。片や吹奏楽が大規模な編成と工夫された高度な音楽を奏で、立派な成果が近年見られつつある。

中学校A部門は人数の確保に苦労され、指導者の意気込みに賞賛するが、音楽性を追求すると、もう一步抜き出した団体が見られないのが残念である。

中学校B部門においては85校の驚異的な参加で活気力が見られ、予選を通過するにも高い競争率である。しかし、選考会に出場した団体は全くの「どんぐりの背比べ」であって抜き出した音楽性を表現しているところが少なかった。もう一步、サウンドや音楽性を工夫することや、アドバイスを受けたならば突出するだろう。

高校A部門はレベルの高い音楽性に定着しているが、指導者自ら音楽を追求し、他県に勝る独特なサウンドや音楽性を持ってもらいたい。

高校B部門は、本県連盟の部門の中で最も充実した音楽を演奏し、レベルの高い部門である。他県との競争に勝ることがあっても劣ることはないだろう。

一般部門はコンクールの参加数が最多となり、どのバンドもダイナミックな演奏であった。今後、緻密な音楽の追求をすれば、東関東大会でも大きく期待が持たれるだろう。

大学部門は、学生一人ひとりがもっと音楽に研鑽を重ね、良き吹奏楽サウンドに耳を傾けて団結力を持って欲しいものである。

コンクールに参加するからには、是非、高い目標やライバル団体を持つことによって切磋琢磨して欲しい。そして、良き音楽、上手な音楽が生まれるよう心して1年間練習して欲しい。

しかし、コンクールだけの音楽では本来の音楽の楽しさや大切さを見失ってしまうものであ。何らかの形の音楽会、定期演奏会、発表会を開かれんことを切に望むところである。

第 47 回 栃木県吹奏楽コンクール

7月27日(木), 28日(金), 29日(土) 8月7日(日), 8日(月)

宇都宮市文化会館

《各部門の金賞受賞団体》 (★→県代表、〔 〕→参加団体数)

(団体名) (演奏曲目) (作曲家) (指揮者)

◎中学校 B 部門 [85 校] (☆→8/8 県代表選考会出場)

1 班 7/27

★☆西方町立 西方中学校	「ザ オールド マタドール」(ホブローグイッ)	川田美由紀
☆小山市立 小山中学校	「第六の幸福をもたらす宿」(アーノルド)	飛座 泰宏
★☆小山市立 間々田中学校	「“小鳥売り”セレクション」(ツェラー)	森口 裕子
大田原市立 若草中学校	「ピータールー序曲」(アーノルド)	渡辺 史章
★☆大平町立 大平中学校	「写楽」(高橋伸哉)	大阿久靖子
☆真岡市立 真岡中学校	「第六の幸福をもたらす宿」(アーノルド)	中野 弘子
二宮町立 久下田中学校	「“メリーウィドウ”セレクション」(レハール)	橋本 孝夫
☆大田原市立 大田原中学校	「スコーティン オン ハードロック」(ホグワグ)	岡田 真弓
☆足利市立 北中学校	「カルメン組曲より」(ビゼー)	町田三菜子

2 班 7/28

☆佐野市立 北中学校	「“メリーウィドウ”セレクション」(レハール)	新井比佐子
☆作新学院中等部	「アルメニアンダンス パート1」(リード)	大橋 友子
☆真岡市立 真岡東中学校	「交響曲“マンダラ”」(平田 英夫)	沢畑 庸子
★☆壬生町立 壬生中学校	「花の歌」(福島 弘和)	田中 修
小川町立 小川中学校	「氷河特急 アルプスの旅」(ニーク)	山口 智子
★☆日光市立 東中学校	「ミス サイゴン」(シェーンベルグ)	星野由美子
☆宇都宮市立 豊郷中学校	「“小鳥売り”セレクション」(ツェラー)	和田 千明
★☆宇都宮市立 鬼怒中学校	「ベトナムの回顧」(ギリングハム)	佐藤 浩

〔7月27日, 28日の審査員〕

紙谷 一衛 (かみやかずえ: 指揮)

藤田 玄播 (ふじたげんぱ: 作曲, 編曲) 山本 武雄 (やまもとたけお: 金管 Trp.)

遠藤 朱実 (えんどうあけみ: 木管Sax.) 藤井むつ子 (ふじい: 打楽器)

◎高等学校 C. D 部門 7/29 [C. 4 高・D. 2 校]

C 県立 宇都宮北高校	「組曲“動物の謝肉祭”より」(サン サーンズ)	菊川 祐一
D 県立 石橋高校	「“こうもり”セレクション」(J.シュトラウス二世)	栗田 芳子

◎高等学校 B 部門 7/29 [33 校]

★県立 宇都宮南高校	「交響曲第 5 番より 2.4 楽章」(アーノルド)	西垣 徹
★県立 小山城南高校	「指輪物語より」(デメイ)	山本 伸子
★県立 栃木南高校	「おほなる〜1995.1.17 阪神淡路大震災へのオマージュ」(天野正道)	前橋 亘子
★県立 真岡高校	「…そしてどこにも山の姿はない」(シュワントナー)	岩原 篤男
★県立 石橋高校	「おほなる〜1995.1.17 阪神淡路大震災へのオマージュ」(天野正道)	栗田 芳子
★県立 小山西高校	「民衆を導く自由の女神」(樽屋雅徳)	坂本 亮
★県立 真岡北陵高校	「虹の戦士」(フラク)	村田 明重
県立 茂木高校	「アブサロン」(アッペルモンド)	大久保裕子

〔7月29日の審査員〕

稲垣 征夫 (いながきいくお: 指揮)

藤田 玄播 (ふじたげんぱ: 作曲, 編曲) 並木 博美 (なみきひろみ: 金管 Hr.)

小串 俊寿 (おぐしとしひさ: 木管Sax.) 寺田 由美 (てらだゆみ: 打楽器)

◎中学校 A 部門 8/7 [18校]

益子町立 益子中学校	課Ⅱ「写楽」(高橋伸哉)	石塚 正美
★矢板市立 矢板中学校	課Ⅰ「“管弦樂のための協奏曲”より終曲」(バルトーク)	戸村 真一
★今市市立 大沢中学校	課Ⅱ「闇の中のひとすじの光」(ギリングハム)	齋藤紀美子
★宇都宮市立 陽西中学校	課Ⅱ「ウィズ ハート アンド ヴォイス」(ギリングハム)	丸山 雄史
★宇都宮市立 陽東中学校	課Ⅱ「民衆を導く自由の女神」(樽屋雅徳)	手塚 淳雄

◎大学・一般部門 8/7 [大学 2. 一般 7]

★白鷺大学ウィンドオーケストラ	課Ⅲ「ディスカバリーファンタジー」(デハーン)	堂阪 知之
★小山市交響吹奏楽団	課Ⅱ「キトラ」(高橋伸哉)	原 進
★矢板ウィンドオーケストラ	課Ⅱ「交響詩エグモントよりⅢ,Ⅳ」(アッペルモンント)	田村 和久
★足利市民吹奏楽団	課Ⅱ「交響詩“ローマの祭”より」(レスピーギ)	齋藤 俊也

◎小学校部門 8/8 [11校]

栃木市立 栃木第三小学校	「ビヨンド ザ ホライズン」(ペールマン)	齋藤 州代
★真岡市立 真岡小学校	「アンド キャン イット ビー」(ギリングハム)	松本 忠史
宇都宮市立 五代小学校	「バラード フォー ベニー」(スパーク)	牧田 尚恵
★高根沢市立 阿久津小学校	「フニクリ フニクラ」(デンツァ)	鈴木由美子
★今市市立 大室小学校	「ミス サイゴン”より」(シューンベルグ)	星野 淳
★真岡市立 真岡西小学校	「ファンファーレ アンド プロセッションナル」(カハス)	小倉 伸一

◎高等学校 A 部門 8/8 [7校]

★作新学院高校	課Ⅱ「三つのジャポニズム」(真島俊夫)	三橋 英之
★県立 宇都宮中央女子高校	課Ⅲ「マゼランの未知なる大陸への挑戦」(樽屋雅徳)	堺 武弥
★県立 今市高校	課Ⅱ「青い水平線より」(チェザリーニ)	柴田 高志

【8月7日, 8日の審査員】

鈴木 英史(すずきえいじ: 作曲 編曲)
内山 洋(うちやまひろし: 木管 Cl.)

大木 隆明(おおきたかあき: 指揮 教育)
山本 武雄(やまもとたけお: 金管 Trp.)
百瀬 和紀(ももせかずのり: 打楽器)



コンクールには金、銀、銅といった賞がつき、一喜一憂するものですが、成績の如何よりも、毎日のように仲間と共に「練習を重ねてきた過程」そのものが、最も価値あるものであることにも気付いていただきたい。

石塚 武男

(県吹奏楽コンクールプログラムより)

指揮者と演奏者の皆さんへ

吹奏楽コンクール各審査員より

今年も夏の栃木県吹奏楽コンクールにおいて、審査員の各先生方に各部門ごとに感想や今後への課題などについて伺ってみました。良い部分は確認して更に充実させたり、改善点は早急に課題として取り組むなど、今後の演奏活動や次年度のコンクールに向けての踏み台としてください。

◆ 7月27日・28日 中学校B部門

〔演奏者(生徒)の皆さんへ〕

- ・この部門は技術的にも音楽的にも大変向上しています。音色も良くなってきています。個人練習の大切さが少しずつわかってきているように感じました。
- ・ブレスコントロールのトレーニングが足りない。また、リズムに合わせて体を動かす、足を踏むことなどで、フレーズを大きく捉えられない。
- ・木管楽器はタンギングが少し乱暴なのが気になりました。
- ・先生に言われたことだけを守るのではなく、自らが音楽を求める姿勢が大切。音の勢いに表れてきます。

〔指揮者の皆さんへ〕

- ・各声部のバランスでメロディも他の声部も同じ大きさになってしまって、立体的なサウンドにならないバンドが多い。
- ・音楽をタテ(縦)に感じてしまう傾向を強く感じました。フレーズの流れを音楽的に大きく捉えることが大切です。
- ・各楽器、パートのバランスが良くないバンドが目立ちます。また、音楽の場面の変化などをもう少し大切にしたい。
- ・一生懸命さの伝わる演奏が多かった。しかし、どのバンドも基本的な発音については、もう少し専門的なエキスを取り入れて欲しい。
- ・現代のハーモニーを使った曲をよく演奏されますが、このような曲こそピッチを正確無比に合わせる必要があります。
- ・メトロノームの代わりではなく、音楽を生徒達と一緒におおらかに作り上げて欲しい。
- ・無表情の「音の羅列」の演奏が多い。曲想やリズムが変わったらそれに対応した演奏をすることを勉強して欲しい。音符に書いていないことを教えるのも指導者の役目です。
- ・指揮者の動きを見て、どんな音楽かがわかる指揮をして欲しい。「力む」だけとか、「振る」だけの指揮では音楽の指揮ではない。

〔その他〕

- ・運営も良く、またステージ進行がとてもスムーズでした。客席のマナーも良かった。

◆ 7月29日 高校C・D・B部門

〔演奏者の皆さんへ〕

高校C・D

- ・少人数でも頑張っている姿を見てとてもうれしかった。ぜひ、仲間が増えるように頑張っていて欲しい。また、個人の基礎力の向上に頑張っていて欲しい。
- ・人数が少ないときは、無理に広がらずにアンサンブルしやすいセッティングを。

高校B

- ・情熱たっぷりの演奏が多く、感動しました。Per.はブレンド感とバランスを考えた音量やニュアンス、タッチを研究してください。
- ・男子校はほとんど高校に入ってから始めたと思うが、よくやっていると思う反面、もっ

- と楽しんで演奏して欲しいと思う。楽しさがあまり伝わってこなかったのが残念。
・形にとらわれず多少くずれても良いから、大胆で多様な表現を目指してください。

〔指揮者の皆さんへ〕

高校 C・D

- ・生徒と共に音楽を作り上げている様子が伝わる一体感を感じました。
- ・一人一人の音を良く聞いてあげて、こつこつと指導してください。

高校 B

- ・音楽のイメージ、奏者の出す音のイメージの目標を持たせ、引き出して欲しい。
- ・生徒とのコミュニケーションが上手に取れて、きっちりと仕上げている学校が多く、先生の指導力の深さを感じた。
- ・「ドミソ」の美しいハーモニーを全員で楽しめたら、音楽ももっと深くなる。
- ・とても上手なバンドもあったが、音楽を本当にアピールできる団体が少ないのが残念。
- ・音楽をどのように作り、どのように伝えるのかを常にはっきりと認識しながら、前向きな表現力を目指して欲しい。
- ・先生方の指揮には愛情が感じることができて、うれしかった。
- ・常に一本調子にならないようにすることと、各声部のバランスをもっと研究して欲しい。

〔その他〕

- ・ステージの進行もスムーズで、大変素晴らしい運営だと思った。(同様 3)
- ・審査途中の“おしぼり”はたいへんうれしかった。大歓迎です。

◆ 8月7日 中学校 A 部門・大学・一般

〔演奏者(生徒)の皆さんへ〕

中学校 A

- ・全ての楽器に言えることですが、楽器を演奏を演奏するときが一番大切なことは、ソルフェージュする事です。(自分の体が歌う、感じること)しっかりした音に必要なブレスや音の支え全てここから始まります。素晴らしいバンドがたくさん出来る筈です。
- ・私はまず“音がきれいかどうか”が一番気になります。きたない音色でいくら解釈を工夫しても所詮美しい音楽にはなりません。
- ・100 倍くらい豊かな息で、音色に目を(耳を)向けて！
- ・上手なバンドとそうでないバンドに差がある。
- ・基本的な練習方法をもっと研究する必要がある。(同様 1)

大学

- ・音楽的な向上を期待したい。コンクール参加の目的意識を強く持って欲しい。
- ・自発性あふれる音楽を作って欲しい。

一般

- ・“音楽”で勝負したい。
- ・“サウンド”以外の表現にも可能性を広げて欲しい。
- ・即席ではなく日ごろの練習により一つになることができたか。

〔指揮者の皆さんへ〕

中学校 A

- ・演奏者にとって幸せになる指揮者とは、音楽に必要な音、リズムそしてフレーズを体で感じさせる指揮者です。その為には演奏者以上に音楽していなくては何も伝わりません。
(ただ指揮棒を振っても…)
- ・予備拍を 1 小節も振ってから始める人が多い。ぜひ 1 拍だけでやるようにして欲しい。
生徒は絶対にそれでもできます。
- ・基本的な練習をどれだけきつめてやれるかが(一つでよいから)重要です。
- ・上手な人は本当に上手。良い指揮よりも良い指導者であるべき。

- ・プレスと打点をしっかりと示せるようにして欲しい。

大学

- ・時間がかけれない中で、もっと音楽的な要求をして欲しい。
- ・あまり指揮をしすぎない方が良い。音楽作りは指揮者が責任を持って！

一般

- ・スケールの大きな演奏と聞く者の感動する音楽を常に意識して欲しい。
- ・弱奏で聴かせる演奏を聴きたい。
- ・うまい人はほとんどプロだと思う。

〔その他〕

- ・運営はとてもスムーズで見習う部分が多い。お陰で気持ちよく審査できました。(同様1)
- ・補助員の清陵高校の生徒さんと接待が素晴らしかった。

◆ 8月8日 小学校・中学校B部門代表選考会・高校A部門

〔演奏者(生徒)の皆さんへ〕

小学校

- ・とても上手でした。これからも音楽を続けてください。(同様1)

中学校B選考会

- ・技術的、音楽的にほとんどレベルの差はありません。一人一人がいい音を出せるよう磨きをかけよう。(同様1)
- ・まず音色を豊かに、音程を正しく。これがすべてと言っても良い。

高校A

- ・大きな音とスケールの大きな演奏は区別したい。大音響で主題もハーモニーも消えてしまうのが残念。

〔指揮者の皆さんへ〕

小学校

- ・選曲に一考が必要。小学生に合った曲を！(同様1)
- ・子ども達が「ハモルことって楽しい！」と感じる曲を選んで欲しい。
- ・難しい曲を大変上手に演奏しています。とても上手ですが、あまり無理をしないように良いものを求めたい。
- ・丁寧な指揮はとても良い。

中学校B選考会

- ・大きな音が濁る。指導者の責任でバランスの良いハーモニーを作って欲しい。
- ・誰か別の指導者が合奏を作ったことが判ってしまうことがある。
- ・音程、発音など、基礎力がアップすれば数段伸びます。ほとんどドングリ状態です。基礎を丹念にできる学校が伸びる筈です。

高校A

- ・少しコンクール向けの音楽になりきっている。(やや無理がある)また、「音楽」より「音量」を重要にしている感じがある。無理は禁物。
- ・大きく鳴らすだけでなく、ほっとする場所は必ず作って欲しい。
- ・小学校、中学校Bも含め、指揮者はステージに出た時から、これから振る音楽に全神経を集中すべきである。演奏の直前まで生徒の間をかけず回っている図はおかしい。普段から生徒には、自分の位置を自分で見つける訓練をしておくべき。これができないような生徒に、立派なアンサンブルができるはずがない。

〔その他〕

- ・補助員の鹿沼西中の生徒さんの接待が素晴らしい！
- ・ほとんどタイムテーブル通りに行っているステージの進行は見事でした。

♪ 各支部だより ♪ [広報部員名]

佐野支部 [佐野市立犬伏小・鈴木 美佐子]

6月19日(日)、青藍泰斗高等学校を会場に、佐野支部吹奏楽実技講習会を行いました。東京ミュージック&メディアアーツ尚美から学生講師13名をお招きして、各パートに分かれて講習を行っていただきました。佐野市内の中学・高校から、約50名の参加がありました。

講習ではそれぞれの楽器の組み立て方、メンテナンス、奏法、基礎練習の仕方といった基本的なことから、悩みを相談したりコンクールで演奏する曲を講師の先生に模範演奏してもらったりと、参加者は大いに勉強し有意義な時間を過ごせたようです。講師の先生方はとても優しく、丁寧に教えてくださいました。本当にありがとうございました。

<参加者の感想>

- 講習で正しい奏法を教わり、自分の奏法の間違いに気づきました。これからの練習で生かしていきたいです。(高2女子)
- 講師の先生の音が、とてもきれいで感動しました。私もこんなきれいな音が出せたらいいなあと思いました。(中3女子)
- 講師の先生が分かりやすく丁寧に教えてくださったので、とても勉強になりました。講習後は吹き方や音が変わったような気がします。(高1男子)

足利支部 [足利市立第三中・早坂 純子]

先日、全日程を終了した県吹奏楽コンクールは、生徒たちだけでなく、見に来られた多くの保護者の方々にも多くの感動を残しました。今回は、我が子の演奏を見守った保護者の方々の方々の声を集めてみました。

♪打楽器運搬の手伝いとして、両親で聴かせていただきました。舞台裏で前団体の演奏を聴きながら、「最後のコンクールだから、楽しんでおいで」と送り出しました。上の子は最後の、そして下の子は初めてのコンクール参加で親の方がドキドキしていたかもしれませんが、子供達の堂々とした演奏に感激しました。

♪とても親バカなのですが、我が子のトランペットの音色に惚れています。コンクールでは、合奏とソロの部分が絶妙で、親としては感動のひとつときでした。が、息子の口からは辛辣な反省が！さらに上を目指して、これからも頑張ってもらいたいと思います。

♪今年も、舞台の袖から祈るような気持ちで聴かせていただきました。親の欲目でしょうか、我が子の演奏はとても上手で堂々としていたように思いました。クラリネットを始めて早三年、美しい音色が奏でられるようになりましたね。これからも仲間と力を合わせて素敵な演奏を聴かせてください。

♪舞台の袖で娘たちの演奏を聴きました。楽器だけでなく、気持ちも合わせなくてはと、みんなをまとめるのに試行錯誤してきた三年の姉達、それについていこうと頑張ってきた妹達、とにかく一心に演奏している子供達を愛おしく思い、祈るような気持ちで聴いていました。

♪目には見えない我が子のすばらしい成長が音となり、胸に鳴り響いて、何とも言えない緊張感と、すぐにでも我が子に駆け寄り「よくやった！！」と抱きしめたい気持ちでいっぱいになりました。吹奏楽を通して感じた様々な思い、体験したことをいつまでも忘れないでほしいと思います。



吹奏楽コンクールを終えて

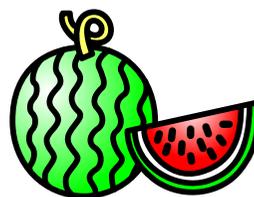
県立真岡高等学校 顧問 岩原 篤男

今年の4月、2、3年生が進学を理由に10名退部。残った2、3年生は3年8名、2年6名の14名になってしまいました。40年間も続いた定期演奏会をOBに手伝ってもらえば実施可能であったがやはり部員達で作り上げてこそ定期演奏会なので中止。会場から全てキャンセル。非常につらい幕開けの年となりました。

4月、新入生勧誘も真剣。15名の新入生が入部してくれました。天の助けです。また今年は、6月に学校祭があり、この行事も単独では実施不可能なため真岡女子高に助っ人を頼み、なんとか一般公開の演奏を実施し楽しいステージが作れました。お礼申し上げます。ありがとうございました。

その時、コンクールの曲はメンバーの顔ぶれを見て中間試験後に決定し練習開始。前半の1/3しか譜読みできず、まずこの1/3だけでも演奏しようと思われ、はずかしくても前半1/3だけを学校祭で発表。大会まであと1ヶ月で全部通るかどうかが不安の毎日。新入生の初めて楽器を持った人達も必死の練習！よく頑張りました。

7/17芳賀真岡のフェスティバルで何とか通ったものの今年は、東関東大会に出場できるとは思っていませんでした。喜びはひとしおです。これから東関東大会に出場するからは栃木県代表として期待に応えられるよう頑張ります。最後に私達を応援してくれた人達に感謝して筆を閉じます。



吹奏楽コンクールを終えて

真岡中学校吹奏楽部 代表生徒

私たち真岡中学校吹奏楽部では、今年の吹奏楽コンクールで「第六の幸福をもたらす宿」を演奏しました。この曲を選ぶにあたっては、みんなでCDを聴いて、たくさんの曲の中から自分たちに一番合っているのはこの曲ではないかということで決定しました。この曲は「第六の幸福」という映画のストーリーを表現したもので、私たちはそのストーリーの内容にもたいへん感銘を受け、ぜひこの感動を音楽で表現したいと意欲をもって練習に取り組みました。

練習過程では、個人・パート練習、セクション練習の他に合奏の基礎練習にも力を入れて、基礎を固めていくことに重点を置きました。

部員一人一人が音程や音色に気を配り、美しいハーモニー作りをめざしました。また、3年生を中心に意見を出し合い、課題を一つずつクリアしながら曲作りをしていきました。そうして練習を重ねていく中で、私たちは表現の幅を広げ、すてきな音楽を奏でることができるようになってきました。

コンクール予選では満足のいく演奏はできませんでしたが、本選では自分たちのもっている力をすべて発揮し、ベストを尽くせたと思います。惜しくも県代表にはなれませんが、とてもよい勉強になりました。今後さらに、部員一人一人がこつこつと地道な努力を積み重ねていき、人の心に感動を与えることのできるような豊かなサウンド作りのため、演奏の基礎・基本をしっかり身につけていきたいと思っています。



今回は、6/18に那須塩原市黒磯文化会館大ホールで行われた
「黒磯高校吹奏楽部・第4回サマーコンサート」の様をお伝えします。

黒磯高等学校吹奏学部では、6月18日に那須塩原市黒磯文化会館で第4回サマーコンサートを開催しました。私たち3年生にとっては最後のコンサートだったので、1年前から構想を練り、常に「成功」を思い描いてきました。

今年の部員はとりわけ、個人の意識、技術が高くて、周りからの期待も高かったように思います。実際は、限られた時間の中での準備はとても大変で、コンサートが近づくにつれて不安も増してきました。しかし、努力は報われ、当日はとても思い出に残るものとなりました。コンサートの成功の鍵を握る来場者数は昨年より飛躍的にのび、来場者から多くの賞賛の言葉をいただき、部員の自信につなげることができました。

私たち3年生はもう引退してしまいましたが、このコンサートの成果は、先輩や後輩に胸を張って伝えていくことが出来ると思います。 黒磯高校吹奏楽部 部長（3年）

♪演奏会を観に行った生徒の感想です！

力強い曲から、感動的な曲、ノリのよい曲と盛りだくさんで、満足できる演奏会だったと思います。途中の衣装チェンジも視覚的に楽しめるようにと飽きさせない工夫が見られました。 R・K(Per)

衣装を変えたり、途中のおもしろい寸劇などで、耳だけでなく目でも楽しむことができました。素晴らしい演奏会でした。 H・K(Per)

衣装を浴衣などに替えたりするなど随所に工夫した点が見られましたが、演奏した曲が多少、世間一般では知られていない曲が多かったので、少し盛り上がり欠けたように感じました。その点を改善すれば来年はもっと良い演奏会になると思う。 H・T(CI)

とてもきれいで迫力のあるサウンドに思わず圧倒されてしまいました。良かったところを真似して自分たちの演奏に役立てたいです。 Y・Y(Per)

コンクールが始まった途端に大変暑くなった今年の夏。大会前日、台風7号による風雨のため、「楽器が運べない」ということで、ホール練習をキャンセルしました。でも、当日は生徒の願いが届いたのか、快晴+猛暑。何とか演奏を終えることができました。

コンクールの1週間前に恒例の下都賀栃木地区の吹奏楽フェスティバルが栃木市の文化会館で行われました。例年の事ながら、初めて大きな舞台上で演奏する生徒は緊張した様子。リハーサルが終わって舞台袖で待つ生徒は、お互いに緊張をほぐそうとしていました。

演奏が終わって、藤尾先生からのご指導。生徒がいろいろなことを吸収しようという意気込みが感じられた返事でした。

それからコンクールが終わるまでの1週間、文字通り必死でした。結果はいずれにしろ、コンクールに向かって一生懸命練習し、曲づくりをしてきたものにしかわからない感動だけが残った今年の夏でした。来年も、この感動を。



下都賀・小山支部

〔石橋町立石橋中・坂本 美保〕

魅力ある吹奏楽部・入部したい吹奏楽部 についてのアンケート (高校生編)

☆あなたが吹奏楽部・音楽部に入部した理由は… (複数回答)

- ア 先輩が優しいから
- イ 顧問の先生が優しいから
- ウ 先輩が厳しいから
- エ 顧問の先生が厳しいから
- オ 音楽が好きで、楽器の演奏をしたことがあるから
- カ 音楽が好きで、楽器の演奏をしたことがないから
- キ 中学校の時の、吹奏楽部の演奏が良かったから (自分は演奏していた)
- ク 中学校の時の、吹奏楽部の演奏が良かったから (自分は聴いていた)
- ケ 中学校の時の、吹奏楽部の演奏が良くなかったから (自分は演奏していた)
- コ 中学校の時の、吹奏楽部の演奏が良くなかったから (自分は聴いていた)
- サ 高校の吹奏楽部の演奏が良かったから
- シ その他



1年	ア	イ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
2年	ア	イ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
3年	ア	イ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
男子	ア	イ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
女子	ア	イ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ

☆吹奏楽部・音楽部の活動で満足しているのはどのような点ですか。 (複数回答)

- ア 楽器が演奏できるようになった
- イ 演奏をするのが楽しい
- ウ 音楽の楽しさを味わうことができる
- エ 先輩が優しい
- オ 顧問の先生が優しい
- カ 先輩が厳しい
- キ 顧問の先生が厳しい
- ク 部員にまとまりや活気がある
- ケ いろいろな曲を演奏することができる
- コ いろいろな演奏を聴きに行くことができる
- サ その他

1年	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
2年	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
3年	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
男子	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
女子	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ

この結果意外にも、活動についての自由記述欄からは、熱心に取り組み充実した活動をしている様子が伝わってきました。(今回ご紹介できずすみません)

コンクール等でお忙しい時期にご協力いただきました、石橋高校、小山高校、小山城南高校の皆様、ありがとうございました。

上都賀支部

〔今市市立東原中・大藤 正嗣〕

「甲子園の終わりは夏の終わり」。さる名物コラムニストがそう言った。吹奏楽でいえばコンクールは、上位大会は秋までの長い道のりであるが、コンクールに参加するほとんどの団体にとっては、県コンクールの終わりがそのまま「夏の終わり」にもなるだろう。その県コンクールを終えて、本支部に属する団体のうち5団体が、上位大会への代表権を得た。このような優秀な団体が、本地区内のリーダー的存在として、他団体への刺激を与えてくれる。敬意と祝福を表するとともに、上位大会でも各団体の持ち味を存分に発揮されることを望みたい。

そんな、コンクールに燃える夏がある一方で、こんな話も耳にした。本地区は地域柄、運動会などで「日光和楽踊」を参加者全員で踊る、という学校が多いのだが、ある小学校では、吹奏楽部がそのまま、運動会で、和楽踊のお囃子を奏で歌う「舞楽部隊」になるのだとか。普段はチューバを吹く6年生が手に豆を作って和太鼓をたたき、といった光景が、夏休み前あたりから見られるらしい。このような学校にとっては、和楽囃子がそのまま「夏の響き」になるのだろう。

昨年の映画「S. G.」の影響も大きいかと思うが、吹奏楽部員の増えた学校が多いようだ。活動の基本形態をビッグバンド形式にした学校も、実際に本地区にある（が、この学校の顧問の先生は「S. G.」の前から夢見ていたことであり決してその影響ではないと言っていたので、念のため）。それぞれの団体は、コンクールなり祭囃子なり、あるいはジャズなりサマコンなりと各様に夏を過ごし、満を持して「芸術の秋」を迎える。さあいよいよ、それぞれの<夏>を、収穫する季節だ。

宇都宮・河内支部

〔県立上三川高・細野 美樹、宇都宮市立明治中・羽野 美保子〕

(都合によりお休みします。)



小山市立小山第三中学校吹奏楽部

○学校所在地 小山市犬塚3-29-1 ○顧問 金森 真由美
 ○全校生徒数 746名 ○部員数 59名



♪ ----- ♪
 小山市の東部市街地に立地する小山第三中は、22クラスから成る大規模校です。創設された26年前には学校の周辺にも畑が一面に広がっていましたが、現在は大型店や、ファミリーレストラン、賃貸マンションが建ち並び、当時の面影はなくなりつつあります。
 ♪ ----- ♪

♪ **校風** 🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵

生徒に本校のPRをしてもらおうと、ほとんどが部活動の盛んなことを挙げます。5、6月は、AM6:30には、かなりの運動部の生徒が、校庭で練習を始めています。昨年度は栃木県中学校総合体育大会総合優勝をいただき、今年度も4つの部活動が関東大会へと駒を進めました。

・・・吹奏楽部に関しては、顧問の都合上、全くの自主練習となっています。それでも他の部活に感化され、多くの部員が、毎朝、音楽室から音を響かせています。

♪ **活動方針** 🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵

吹奏楽部に入って本当に良かった、音楽は素晴らしいと感じてほしいと、常に願いながら部活動の指導に当たっています。そのために、チームワークを大切にしています。

1年生が初めて入部した時に、絶対に仲間はずれをしないこと、陰口は厳禁、これを約束させています。みんな仲良く。昼食は(休日)、学年ごとにみんなで円くなってとります。

モットーは、**一音一心 うまさ=練習量**、7年前の生徒達が考えたものです。今も受け継がれており、大きく書かれたこの文字を見ながら毎日練習しています。

♪ **練習について** 🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵

① 基本練習

顧問は全く管楽器が吹けません。これが指導上の大きな悩みです。そのため基本練習の教本もわかりやすいものを使っています。今使っているのは、東京ミュージック&メディアアーツ尚美から出ている「尚美ウインドスタディ」とヤマハから出ている「NEMU BAND METHOD」です。どちらもコメントが易しく、パート譜も付いており、吹奏楽のことがよく分からない私にはとても助かります。

また、「バンドジャーナル」も生徒が自由に読めるようになっていきます。管楽器へのアドバイスを読んで、自分でも解らない所をどうしたらよいかつかみ取って欲しいと思い、もう4年分が貯まりました。

② 合奏

コンクールなどの長期にわたって練習する曲は、全員がスコアを



持っています。自分が演奏していない時も、一緒に練習に集中することができます。他のパートを急に演奏することになっても楽譜が手元にあるのでとても便利です。このごろは、生徒の方から早くスコアが欲しいと言われるようになりました。

♪ 先輩の応援

チームワークの事を書きましたが、先輩と後輩の仲も良く、卒業生が差し入れを持って時々様子を見に来て、いろいろアドバイスをしてくれます。高校ではこんな練習をしているので、ぜひ取り入れた方がいいと教えてくれたり、更に磨きがかかった音を聴かせてくれたり、コンクール前には仕上がりをチェックして、後輩に指導してくれたりと、顧問の私だけでは足りない部分を大きく補ってくれます。先日も野球の関東大会の応援をどうしたらいいか考えていた所、訪れてくれた卒業生が、楽器持参で丁寧に、やり方を教えてくれて、本当に助かりました。高校でも活躍してくれている卒業生がいることが、吹奏楽を指導していて良かったと思うことの一つであり、励みになっています。

♪ 小学校との連携

連携といっても何かを計画的にやっているわけではありません。ただ、妹が、三中学区の小学校にいたので、連絡は取りやすいです。小学校で、金管バンドを妹に指導されていて、続けて中学校で吹奏楽部に入る生徒がいて、私と、妹と、生徒の間で、話が弾みます。夏休みに一緒に練習したり、去年は小学校の文化祭で演奏をさせていただいたりとお互いに気兼ねなく、卒を広げて楽しんでいます。

♪ 主な演奏活動 (平成17年度)

- 4月 部活動紹介
- 7月 小山地区吹奏楽フェスティバル
栃木県吹奏楽コンクール
- 8月 野球部関東大会応援
- 9月 運動会入場行進、部活動行進マーチ
下都賀地区音楽発表会
- 10月 栃木県学校音楽祭中央祭
小山地区楽器別講習会
- 11月 アンサンブル発表会
小山市民文化祭音楽発表会中学校の部
- 12月 小山地区ソロコンテスト
栃木県アンサンブルコンテスト
- 2月 小山地区2年生合同練習
- 3月 小山地区バンドフェスティバル
(2年生合同バンド演奏を含む)



♪ 最後に

すごい演奏を聴くと、感動で心がわくわくしてきます。その思いを、音楽にあまり馴染みの薄い生徒にも感じてもらいたいなあ。ここでの活動がきっかけとなって、音楽の楽しさを解る人が、この地域一杯になり、みんなの心の中が♪♪♪♪♪となってくれば最高です。さて今日も頑張ろうっと！



日	曜	項 目	備 考
2	日	矢板市立 矢板中学校吹奏楽部 第12回 チャリティーコンサート	矢板市文化会館大ホール 13:30開場 14:00開演 無料 ♣B.バルトーク『管弦楽のための協奏曲』より終曲 ほか チャリティーコンサートの益金は全額社会福祉施設へ寄贈します。
6	木	足利地区学校音楽祭	足利市民会館大ホール 9:30開演 入場無料 ♣足利市内の小・中・高による、合唱、合奏の発表
22	土	5校合同演奏会	那須野が原ハーモニーホール 13:00開演 入場無料 ♣大田原中、若草中、湯津上中、三島中、西那須野中の各校の 演奏と、2・3年生130名の合同演奏。
30	日	一期一会 (いちごいちえ) バンド演奏会 “烏山青年の家まつり” 参加	栃木県烏山青年の家 前庭 11:00~11:30・13:00~13:30 (2回) ♣烏高OB、烏女高OB、国際医療福祉大有志によるバンド カーペンターズ フォーエバー、他

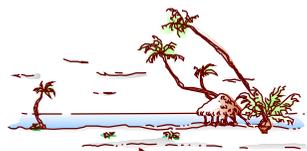
2005年 11月

日	曜	項 目	備 考
12	土	湯津上中学校・若草中学校合同演奏会	13:00開場 13:30開演 那須野が原ハーモニーホール小ホール 無料 ♣各校の演奏および合同演奏

☆☆ 好評の「マイバンド・マイミュージック」次号は、
“県立宇都宮北高等学校吹奏楽部”を予定しています。 ☆☆

チューニング

吹奏楽コンクール特集



■ 高校Aの素晴らしいサウンド

今回の吹奏楽コンクールは、昨年までとは違う組み合わせで中学校B部門の代表選考会の日、高等学校A部門を聴くことができました。他校の演奏を聴く機会の少ない生徒達にとって、高等学校A部門の演奏は衝撃的でした。今まで聴いたことのない素晴らしいサウンドとステージマナーにただ感動するのみ。生徒たちには計り知れない刺激になりました。生徒にも指導者にとっても、新たな大きな目標を示していただけたことと、とてもありがたく感じています。

〔大田原市 女性〕

■ 楽器の搬出

楽器を搬出する時に、大型の打楽器(チャイム、等)をステージの端ぎりぎりへ移動させている学校が多く、ひやひやしました。とてもスムーズな進行ではありませんでしたが、安全面にもう少し配慮も必要かと思えます。

〔那須塩原市女性〕

■ セッティング

セッティングの時、生徒が指揮台に乗って配置を指示していた学校がいくつかありましたが、とても不自然に感じました。その生徒にとっても自分の演奏席の位置や楽譜の準備、そして演奏直前の心の準備も含め時間が欲しいはずです。照明がつく直前に急いで自分の席に戻るのを見ていて可哀想でした。コンクールでは指揮者が指示すべきです。

〔審査員〕

■ セッティング II

指揮者はステージに出た時から、これから振る音楽に全神経を集中すべきである。演奏の直前まで生徒の間をかけずり回っている図はおかしい。普段から生徒には、自分の位置を自分で見つける訓練をしておくべき。これができないような生徒に、立派なアンサンブルができるはずがない。

〔審査員〕(再掲)